

「福音とは何か」

2014年9月21日

神戸国際キリスト教会 礼拝説教

牧師 岩村義雄

ホームページ掲載

目次

- (1) 伝道をどう考えるか 2
 - a. キリストの命令？
「人々を弟子としなさい」
原罪からの救い
 - b. キリストご自身はだれも改宗させなかった
ゲラサ
百人隊長
シリア・フェニキア
 - c. キリストは人々に仕えた
「隣人を愛しなさい」
御国が来ますように
- (2) 福音とは伝道ではない
 - a. キリストの業とは伝道ではない
 - b. 人々に伝える宣教とは 3
キリストに倣う
わたしたち自身がキリストの手紙
キリスト者とキリスト教の違い
 - c. 人々を改宗させる聖書的根拠はない 4
「涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる」は
初代教会で終わった
農夫であるキリストがすでに種蒔きを終えられた
『主を知れ』と言って教えることはない
「宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう」
⇒「わたしを尋ねなかった者たちに自分を現した」
- <結論>
 - キリストご自身の福音宣教のあり方 5
「寄留の外国人、孤児、みなしご」を世話する

(1) 伝道をどう考えるのか

a. キリストの命令？

キリストが「教会」(エクレーシア)を建てたのは何が目的だったのでしょうか。

伝道して信者を増やすことでしょうか。“the Great Commission”(マタイ 28:19)を旗印にしてきました。しかし、キリストは決して回心者を増やさないとは言われませんでした。弟子を増やさないと言われたにすぎません。西方教会、たとえば、ローマ・カトリック教会のイエズス会士フランシスコ・ザヴィエル[1506-1552]や、プロテスタント教会の福音派は未信者に原罪からの「救い」「永遠の命」「信仰」を伝えました。

b. キリストご自身はだれも改宗させなかった

キリストご自身はだれひとり改宗に導いておられません。ゲラサで悪霊に憑かれた人にも改宗を迫らず、自分の家の宗教に戻るように言いました(マルコ 5:1-19)、百人隊長も回心しなくても「これほどの信仰を見たことがない」(マタイ 8:5-13)、シリア・フェニキアの女性(マタイ 15:21-28、マルコ 7:24)に対して回心しなくても「信仰は立派」と言われました。

c. キリストは人々に仕えた

むしろ“the Great Commandment”(「隣人を愛しなさい」)に基づいたディアコニア「仕える」「世話する」「給仕する」の模範を示されました。(マタイ 20:28, 25:44; ルカ 12:37; ヨハネ 12:2,13:34)。

「御国」(王国)(マタイ 24:14)が将来に実現するような福音も要注意です。戦争、飢餓、貧困、病気、死がなくなる時代の到来をまるで不老長寿の薬を売り歩くのは異なる福音です。(ガラテア 1:8,9)。「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」(ローマ 14:17)と書かれているように、神によってもたらされる霊的な「義と平和と喜び」に満ちた状態こそが「御国」です。したがって、「御国」[“我と汝の関係”, つまり神が私たちの心の統治者として治めている関係]は西暦一世紀に成就したことが福音です。

「御父は、私たちが闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下 [御国 βασιλεία バシレイア]に移してくださいました」(コロサイ 1:13)。

であるならば、「御国に行けますように」にと祈るのは異質です。「御国が来ますように」(マタイ 6:10)と心の王座に神を迎え入れる祈りが聞き届けられる基準でしょう。

(2) 福音とは伝道ではない

a. キリストの業とは伝道ではない

キリストの十字架(ガラテア 6:14)により、“この世からの救い(salve emundo)”より、“この世の救い(salve undo)”に光が差し込みます。イエス自らも抑圧された罪人、弱者、病人のために派遣されました。(für andere da sein)。

「福音」good news を実践されます。(イザヤ 61:1; ルカ 4:18)。

キリストの ἔργον エルゴン「業(わざ)」とは、「伝道」ではありません(ヨハネ 4:34, 5:36, 9:4, 10:25, 17:4)。徹頭徹尾に抑圧、差別、人権をないがしろにされている小さな人々に仕えることで

した。(マタイ 20:28,23:11, マルコ 9:35,10:43,45, ルカ 22:26, 2 コリント 4:5, 1 テモテ 5:16)。

b. 人々に伝える宣教とは

キリスト者は「伝道」して教勢を拡大することに惹起すべきではありません。生き様を通して、土の器にキリストの宝を人々に示すだけでいいのです。

「生きているのは、もはや私ではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。私が今、肉において生きているのは、私を愛し、私のためにご自身を献げられた神の子の真実によるものです」(ガラテア 2:20)。

すなわち、「キリストが私の内に生きておられる」ことが伝わればいいのです。「私を見た者は、父を見たのだ」(ヨハネ 14:9)と模範を示されたキリストに倣うのがキリスト者の歩みです(エフェソス 5:1, 2:10)。

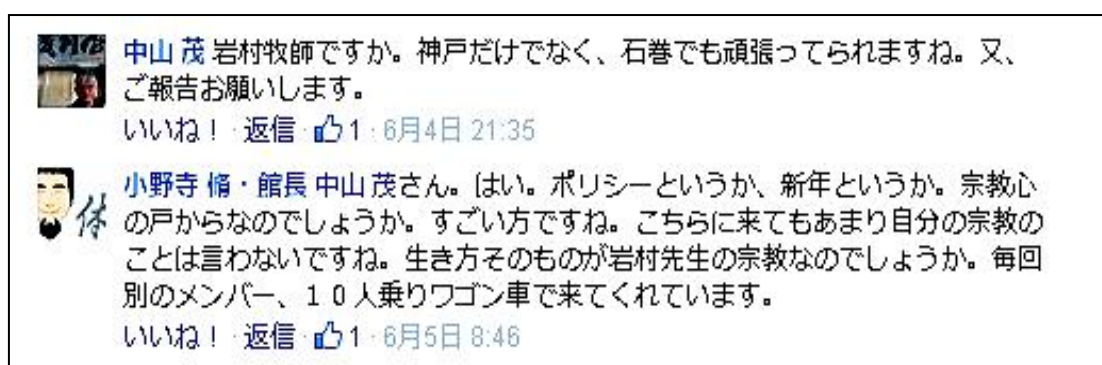
自分を“クリスチャン”というラベルで見られたいために、聖衣、所属組織、神学用語の知識を振りかざさなくてもいいのです。トラクト、名刺、出版物は不要です。神、世の人の評価は、肩書、知識、しゃべくりではなく、生き方で決まるでしょう。わたしたち自身がキリストの手紙だからです。

「私たちの推薦状は、あなたがた自身です。それは、私たちの心に記されていて、すべての人に知られ、また読まれています。あなたがたは、私たちが書いたキリストの手紙であって、墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人間の心の板に書き記されたものであることは、明らかです」(II コリント 3:2,3)。

ζῶ δὲ οὐκέτι ἐγώ, ζῆ δὲ ἐν ἐμοὶ Χριστός ὁ δὲ νῦν ζῶ ἐν σαρκί 「我キリストと^{とも}に十字架につけられたり。最早^{もはや}われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり。ラテン語 vivo autem iam non ego vivit vero in me Christus quod autem nunc」(ガラテア 2:22), と己れの教養、学識、知性は「塵あくた σκύβαλον スクバロン くず、廃物、汚物;糞、糞尿の意)」であり、被災地の息も絶え絶えの人にはむしろ無用です(フィリピ 3:8)。

したがって、キリストについて宣教するとは、イエスとの出会いによって変えられた自分を示すことに他なりません。しゃべくりではありません。

聖書的歩みの根拠としてでなく、人々の見方の一例です。



釜ヶ崎で無給司祭として、労働者に散髪の世話をしたり、生きる権利が抑圧されている人たちと共生している《参照》[本田哲郎](#)さんがおられます。「最も小さい者の一人」(マタイ 25:45)と連帯しています。本田さんによると、ドヤに住み、あるいは路上生活者は努力して「最も小さい者」になっ

たのではありません。社会、制度、企業によって「小さく、低く」されたのです。

ここでも、被災地でも、伝道する必要はありません。「涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる」という「種まき」(詩編 126:5)は1世紀に終わっています(マルコ 4:1-9, マタイ 13:1-9, ルカ 8:1-15)。農夫である「種まく人」、つまりイエス・キリストがすでに、いばらや、岩地、荒野に種を蒔かれています。

「すでに色づいて刈り入れを待っている」(ヨハネ 4:35)のですから、刈り取りが宣教の働きになります。

無理やりに、改宗させ、キリスト教以外に救いはないと、伝道することなど聖書の教えから脱線しています。《参照》神戸国際キリスト教会のホームページ [エキュメニスティ](#)。

布教しなければならない聖書的根拠はありません。《参照》神戸国際キリスト教会のホームページ。

コンスタンティヌス帝[コンスタンティヌス1世 280頃-337年]から始まった4世紀以降の異質な「キリスト教」(クリスティアニスム)の他民族支配、他文化破壊、異民族奴隷化の口実として、伝道がなされてきたのです。

c. 人々を改宗させる聖書的根拠はない

聖書は証言します。

「もはや彼らは、隣人や兄弟の前で、『主を知れ』と言って教え合うことはない。小さな者から大きな者に至るまで、彼らは皆、私を知るからである——主の仰せ。私は彼らの過ちを赦し、もはや彼らの罪を思い起こすことはない」(エレミヤ 31:34)。

「主(エホバ)を知れ」と伝道しなくても良いのです。文脈の「来るべき日に」(**הַיָּמִים** ハ ヤミーム 33節)とは、イエス・キリストが地上に遣わされる「終わり時代」を意味しています。「この終わりの時には、御子を通して私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者と定め、また御子を通して世界を造られましたを万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました」(ヘブライ 1:2)。つまり約2000年前、御子の誕生以来、「終わりの時代」に突入しています。

「私を求めなかった者に私は尋ね出され 私を探さなかった者に見いだされた。私の名を呼ばなかった国民に『私はここにいる、私はここにいる』と言った」(イザヤ 65:1)。

求道者を探すために、紙爆弾の「種まき」用出版物も人間の浅智恵です。

伝道熱心なアメリカや韓国等生まれの極端な伝道グループは聖書の字句拘泥主義です。次なる聖句を盲信、軽信するようにマインドコントロールされます。

「それでは、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるのでしょうか。聞いたことのない方を、どうして信じることができるのでしょうか。宣べ伝える人がいなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができるでしょう。『なんと美しいことか、良い知らせを伝える者の足は』と書いてあるとおりです」(ローマ 10:14,15)。

文脈をひとりで黙想しながら味わう読解力がないのです。

パウロは「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」(ローマ 10:13)と宣教する文脈の 20 節で、たとえ御名を呼び求めなくても、宣べ伝える人がいなくても、『私を探さなかった者たちに見いだされ、私を尋ねなかった者たちに自分を現した』と神は語っています。いったん、公布されたにもかかわらず、交通違反をした者がそんなルール知りませんでしたと弁解しても、個人責任になります。なぜなら世界中に、極東の日本、中国、朝鮮半島も含めて、種まきはキリストによって、すでになされたからです。

「あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています」(コロサイ 1:6)。

「私は植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(I コリント 3:6)の「植える」のは種ではありません。種から成長した苗、接ぎ木、挿し木にすぎません。パウロは生涯、2 人にしかバプテスマ(洗礼)を施していません(I コリント 1:14)。布教活動や、信者数を増やす目的の ○○伝道大会、○○伝道○○、○○宣教大会などは主催者側の自己満足、売名行為、無駄遣いにすぎません。そこにキリストの居場所がありますか。荘厳な会堂、聖歌隊、イベントで、たとえ世の権力者、学者、裕福な人を圧倒し、ひざまずかせても、福音が鳴り響いていると言えるでしょうか。

<結論>

キリストご自身の福音宣教のあり方

キリストはどこにいますか



フリッツ・アイヘンバーグ Fritz Eichenberg [1901-1990] 版画『炊き出しの列に並ぶイエス』

福音の発露は何ですか。聖書は一貫しています。

「主はこう言われる。公正と正義を行い、搾取されている者を虐げる者の手から救いなさい。寄留者、孤児、寡婦を抑圧したり虐待したりしてはならない。また無実の人の血をこの場所で流してはならない」(エレミヤ 22:3)。

「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まることなく自分を守ること、これこそ父なる神の前に清く汚れのない宗教です」(ヤコブ 1:27)。

抑圧されている「寄留の外国人」、日本ならば、在日朝鮮人たち、「孤児、みなしご」、震災などで親を失った子どもたち、「寡婦」、つまり、夫をなくした女性や、被差別部落の方たちの中にキリストは臨在しています。そのような「最も小さい者の一人」に仕えることがイエスの福音であり、業でした。